一粒の麦から、次の100年に向かって
Thanks and Next! since1916

乳幼児体験とこころの臨床

現実と記憶の中の乳幼児期

西南学院講座 in Tokyo

2014.11月16日(日) 13:20開始(13:00受付)

場所 サピアタワー6階(602室) 東京都千代田区丸の内1−7−12

【主催】学校法人 西南学院　【定員】200名　【受講料】2,000円

講師

小倉　清　精神科医、クリニックおぐら院長

小林隆児　精神科医、西南学院大学人間科学部教授

講座のねらい

今日、こころの病は大きく変貌を遂げつつある。その象徴的な現象が新型うつ病と発達障碍の急速な広がりである。数十年前には診断困難な事例の多くがボーダーラインと診断されていたが、今ではそれが発達障碍に塗り替えられつつあるほどである。それほどまでに広がりをみせている発達障碍であるが、その原因を脳障碍と短絡的に関連づけたがために、肝心要の「発達」におけるいかなる問題が「障碍」をもたらすのか、その成り立ちの鍵を握る「乳幼児期の発達過程」についてはいまだにブラックボックス化された状態にある。こころの病の成り立ちをめぐってはフロイトや土居健郎に代表されるように乳幼児体験の重要性はしばしば取り上げられてきたが、その具体像についてはいまだに不透明なままである。本講座では、これまで一貫して乳幼児体験の重要性を主張されてきた小倉清氏に、患者の語りから見えてくる乳幼児体験について語っていただき、さらに、長年の自閉症スペクトラム研究で、実際の乳幼児期の母子関係について最近その研究成果をまとめられた本大学の小林隆児氏に報告をいただく。最後に、こころの病の成り立ちにおいて乳幼児体験の意味をめぐって対談を試みる。この講座を通して、子育てとしての乳幼児期の重要性について参加者とともに改めて考えてみたい。

スケジュール

13:20　挨拶
13:30　［講演1］小林隆児教授(75分)**「乳幼児期の母子関係からみたこころの病の成り立ち」**
(休憩 15分)
15:00　［講演2］小倉　清院長(75分)**「患者の面接で語られる乳幼児体験」**
(休憩 15分)
16:30　［対　談］小倉　清院長 vs 小林隆児教授**「乳幼児期とこころの臨床」**
17:45　閉会

※講座の運営に支障を来たす行為をされた場合は、ご退席いただくことがございます。
※受講の申し込みについては、裏面をご覧ください。

【問い合わせ・申し込み先】西南学院東京オフィス
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7番12号 サピアタワー10階　TEL.03-5220-3737　FAX.03-5220-3838
メールアドレス tokyo@seinan-gu.ac.jp　開室時間 ［平日］9:30〜18:30［土曜日］9:30〜17:00(日、祝日、学院の定める休日は閉室)

西南学院

西南学院東京オフィス 行
FAX.03-5220-3838

『西南学院講座 in Tokyo』受講申込書

記入上のご注意

① 住所・氏名（フリガナ）・電話番号は、必ずご記入ください。
② 年齢・職業等については、受講者層を把握し、講座の運営に役立てるために使わせていただきますので、お差し支えのない範囲でご記入ください。

受講講座名	乳幼児体験とこころの臨床
住所	〒
フリガナ 氏名	
電話番号	
年齢	才
職業	
今回の講座をどのような機会や媒体でお知りになりましたか?	

講師プロフィール

小倉 清 Kiyoshi Ogura ／精神科医、クリニックおぐら院長

1958年、慶應義塾大学医学部卒業。1959～1967年、米国エール大学およびメニンガークリニックへ留学。1967～1995年、関東中央病院精神科。1996年クリニックおぐらを開設し現在に至る。本年11月、乳幼児専門のデイケアを併設した「（新）クリニックおぐら」として新築移転。前日本思春期青年期精神医学会会長、前日本精神分析協会会長。主著として『子どものこころ－その成り立ちをたどる』（慶応義塾大学出版会）、『治療者としてのあり方をめぐって－土居健郎・小倉清対談集』（チーム医療）、『こころのせかい－「私」はだれ？』（彩古書房）、『初回面接－児童精神科臨床2（共著）』『入院治療2－児童精神科臨床4』（以上、星和書店）、『摂食障害－思春期青年期ケース研究1（共編）』『女性と思春期－思春期青年期ケース研究5（共編）』『子どもの精神療法（編著）』『子どもの心身症（共著）』『親子関係の理論（共著）』『小倉清著作集1（子どもの臨床）、2（思春期の臨床）、3（子どもをとりまく環境と臨床）、別巻1（児童精神科ケース集）』（以上、岩崎学術出版社）、『子どもこころを見つめて（小倉清・村田豊久対談、聞き手小林隆児）』『「甘え」とアタッチメント（共著）』（以上、遠見書房）、『子どもの精神科医五〇年』（論創社）など。

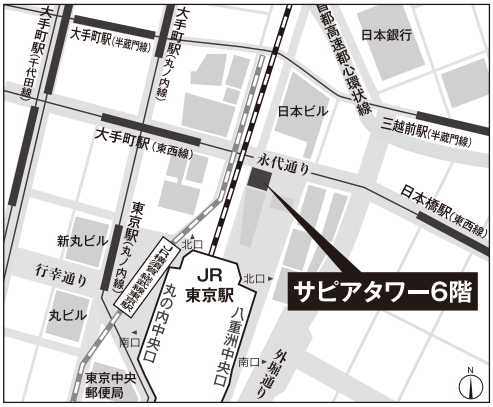
小林隆児 Ryuji Kobayashi ／精神科医、西南学院大学人間科学部教授

1975年、九州大学医学部卒業。その後、福岡大学講師、大分大学助教授、東海大学教授、大正大学教授を経て、2012（平成24）年より現職。医学博士、日本乳幼児医学・心理学会理事長。主著として『自閉症の発達精神病理と治療』『自閉症と行動障害』『自閉症とこころの臨床（共著）』『自閉症のこころをみつめる』（以上、岩崎学術出版社）、『自閉症の関係障害臨床』『自閉症とことばの成り立ち』（以上、ミネルヴァ書房）、『自閉症の関係発達臨床（共編）』『発達障害の感覚・知覚の世界（共著）』（以上、日本評論社）、『よくわかる自閉症』（法研）、『関係からみた発達障碍』（金剛出版）、『子どものこころを見つめて（小倉清・村田豊久対談、聞き手小林隆児）』『「甘え」とアタッチメント（共編）』（以上、遠見書房）など。本年2月『「関係」からみる乳幼児期の自閉症スペクトラム』（ミネルヴァ書房）を上梓。

お申し込みは、この用紙に記入のうえ、FAX または郵送にて受け付けます。
この用紙以外の任意の用紙またはハガキ、メールでも受け付けています。
その場合は、必ず件名に『**西南学院講座 in Tokyo**』と記入してください。
（申込受付確認の返信はいたしませんので、ご了承ください。）
お申し込みは先着順に受け付け、**10月上旬から** 順次、受講案内・受講料振込用紙を送付させていただきます。

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目7番12号 サピアタワー10階
西南学院東京オフィス（担当／吉田）
TEL.03-5220-3737 FAX.03-5220-3838
メールアドレス tokyo@seinan-gu.ac.jp

開室時間 **［平日］9:30～18:30 ［土曜日］9:30～17:00**
※日、祝日、学院の定める休日は閉室



JR東京駅から 新幹線専用改札口（日本橋口）より 徒歩約1分
八重洲北口改札口より 徒歩約3分
地下鉄東西線大手町駅から B7出口直結（サピアタワー地下入口）

個人情報のお取り扱いについて

受講申込時にお預かりした上記の個人情報は、当講座の実施・運営ならびに次回の講座や本学院主催の講演会等のご案内に使わせていただき、他の目的には使用いたしません。なお個人情報は、紙および電子データで保存し「西南学院個人情報保護規程」、「西南学院個人情報取扱手引」に則って、第三者への無断提供、紛失、遺漏、改ざん等が無いよう、適切に管理いたします。